

コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～

その47 コトバの影響



猪俣 恭子

中央大学文学部卒

卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで社内研修の企画・運営および講師を担当。退職後は家業の印刷会社に従事。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年 Coaching Press 株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ、財生涯学習開発財団認定マスターコーチ、コーチエィCTPクラスコーチ、米国CCE,Inc.認定 GCDF-Japanキャリアカウンセラー

数年前の私は何かにつけて「難しいなあ」というのが口癖でした。どういうときにでるかという、新しい業務にチャレンジするとき、苦手な人との対応を考えているとき、知識を習得するときや深めるとき、習慣を変える必要ができたときなどです。とはいっても、決してやりたくないとか、できないとか、後ろ向きになっているわけではないのです。「難しいなあ」と言いながら、その反面「やるぞ!」と気持ちを奮い立たせていたところもありました。

しかし、周りはそう捉えていなかったようです。

あるとき、プロジェクトで一緒に活動していたメンバーからこう言われました。

「猪俣さん、『難しい』って何が?」

ああだ、こうだとぶつぶつ言う私に彼女はすばっと言いきりました。

「猪俣さん。それは『難しい』んじゃないの。『慣れていないだけ』!」

あっ、そうか。はっとしました。なるほど。そうか。確かに…。

納得すると同時に、今まで何気に使っていた「難しいなあ」というコトバは、もしかしたら周囲のメンバーを嫌な気分させていたのかもしれないと反省しました。友人のアドバイスを活かすべく「難しい」と言いそうになるたびに、ぐっと飲み込むようにしたのですが、そうして意識してみるとなんとその言葉を使っていることが多いことか。ただ、面白いことにこのコトバを出さなくなってからある変化が現れました。メンバーからの提案が多くなってきたのです。おかげでチームにバラエティに富むアイデアのストックができました。コトバひとつでも周囲への影響力は大きいですね。

さて、関西大学の安田雪教授の話で興味深いものがあります。それは業績が高い人達（上位15%）とそれ以外の人達とは、使っている言葉が違う、という

ことです。業績が高い人がよく使う言葉は、

- ・率直だ
- ・スムーズだ
- ・前向きだ
- ・有意義だ
- ・特別だ
- ・なんとかだ など。

それ以外の人がよく使う言葉は、

- ・厳しい
- ・面倒だ
- ・大変だ
- ・細かい
- ・悪い
- ・同じだ など。

だそうです。つまり業績が高い人は「ポジティブな言葉が多く、意欲が伝わってくる」が、そうでない人は「比較的ネガティブな言葉が多い」とのこと。

今年一年は様々な企業に伺いました。共通して感じることは、ある日突然会社からリーダーの役割を任せられ、とまどっている方がとても多いということです。ところでリーダーに期待されている役割ってなんのでしょうか？ ビジョンを語りチームの方向を定める力？ メンバーの能力を伸ばす力？ 覚悟をもって状況を判断、決断する力？ もろもろあるでしょう。が、企業でリーダーとして機能していくためには、リーダー自身も何かの分野で一目おかれる必要があると私は思っています。そのためにも、まずは自分が日頃使っているコトバを振り返ってみる、そして前向きな力をうむコトバを意識して使ってみることをしてみませんか？ それは今からすぐに、しかも簡単にできることです。きっとそこから組織や個人の生産性を高める力がうみだされるでしょうし、あなた自身が際立つ分野も自ずと開発されていくことと思います。



Coaching Press

コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162

<http://www.coaching-press.com/> (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)